

感動の場

一点の場

『巡礼家族』
1983年 小川原 脩 画



巡礼家族、この題名も小川原脩が好んで用いたものの一つです。ここでいう巡礼とは、チベット仏教徒のもので、集落または家族で一団となって、聖地であるラサや、仏の化身とあがめられるカイラス山を目指す旅を指しています。小川原脩がはじめて巡礼者の姿を目撃したのは、1981年のラサでのことでした。翌年にも再訪、さらにチベット文化の原型を見るべく1983年にはインド・ラダックへと足を延ばしました。

ラダックから戻った1983年10月、札幌時計台ギャラリーで開催した個展は「チベットーその聖と俗」という副題が添えられていました。案内状の文章には「千の蓮弁^{れんべん}ヒマラヤに囲まれた高地 炎天下大地に身を投じ 祈る^{じゆんれい} 巡禮の生きざま 草一本生えない禿山^{りょうかく} 稜角上のゆるぎない結晶体 白く乾いた僧院建築群・・・」とありました。

この作品にも白い建物のかたまり、身を寄せ合う3人の家族、そして地面に鼻を寄せる犬が一匹。不思議な組み合わせに思えますが、チベットの巡礼者や街角で受けた印象を、端的に、しかし情感豊かに描き出しています。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

フォーク

この風土館で保存している写真の道具は、「フォーク（fork）」と呼ばれる農具で「ピッチフォーク（pitchfork）」とも呼ばれ、古くから西洋で使われていた道具です。

明治時代になって日本に紹介され、全国に普及しました。食事の時に使うフォークと同じようにモノを刺したり、すくったりする道具です。

写真上のものは「フォーク」と呼ばれ、肥料の切り返しや作物などの運搬や移動に用いるものです。全長99㌺、爪の幅24㌺、爪は運びやすく4本爪で柄の手元に取っ手が付いています。

写真中央のものは「ヘイフォーク」と呼ばれ、牧草の乾燥や収納に用いるものです。全長185㌺、爪の幅17㌺、爪は3本で長い柄が付いているのが特徴、牧草を反転したり、積み上げるのに適した形になっています。

写真下のものは「ビート用フォーク・イモ用フォーク」と呼ばれ、ビートやイモの収穫や収納に用いるものです。全長122㌺、爪の幅37㌺、爪は7本と多く、先端が作物を傷つけないように丸くなっています。

同じ「フォーク」と呼ばれる道具ではありますが、対象となる農作物や用途によって爪の数や柄の形が違ってきます。これこそ「道具は手の延長^{ゆえん}」と言われる所以ですね。

文：今井 真司（倶知安風土館 学芸補助員）



ふるさと探訪

482回

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展「アジアの大地」
会期：開催中～7月2日(日)

■第2展示室

小川原脩・穂井田日出磨 二人展「生きる」
会期：開催中～7月2日(日)

アート・イベントのお知らせ

■土曜サロン

小川原脩アートレクチャー①「10代・東京美術学校の頃」
小川原脩の美校時代の作品をじっくり解説します。
日時:6月24日(土)14時～14時45分 定員:なし(予約不要)
会場：会場：映像ルーム（無料） 講師：沼田絵美（学芸員）

倶知安風土館のお知らせ

■転車台クリーニング大作戦

くとさんパーク内に保存されている「転車台」の構内にたまった落ち葉や土を取り除いて、キレイにします。皆様のご協力をお待ちしています！

日時：6月11日(日)10時～12時 定員：なし（予約不要）
集合：くとさんパーク内転車台前 参加費：無料
持ち物：軍手、帽子、飲み物、手ぐわ、スコップなど

■ふるさと探訪「半月湖で野草めぐり」

羊蹄山の麓に位置する半月湖。ぐると一周しながら、季節の野草をながめます（少雨決行）。

日時：6月18日(日)10時～14時 集合：倶知安風土館
定員：10人※要予約（6/12まで） 参加費：250円（保険料）
講師：藤田豊さん（北方山草会会員）
申込：電話にて受付（倶知安風土館☎22－6631）

■倶知安いきもの調査隊「ヒナコウモリの個体数調査会」

百年の森のヒナコウモリのコロニーは、道内有数規模です。夕暮れ時のヒナコウモリの出走を観察します（少雨決行）。

日時：6月21日(水)18時～21時 集合：百年の森
定員：なし（予約不要） 参加費：無料
講師：小田桐亮（学芸員）、宮崎守（百年の森管理人）
持ち物：ヘッドライト、虫よけスプレー、カメラなど

美術館・風土館 コラボイベントのお知らせ

■共同ワークショップ①「葉っぱをスケッチしよう」

前庭の樹から取ってきた葉っぱを観察して、スケッチをします。

日時：6月17日(土)10時～12時 会場：倶知安風土館 体験学習室（無料）
講師：小田桐亮（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ） 定員：20名※小学2年生以下は保護者同伴
申込：電話にて受付（小川原脩美術館☎21－4141）

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141
観覧料：一般 500円（400円）
高校生 300円（200円）
小中学生 100円（50円）
倶知安風土館 ☎22-6631
観覧料：一般 200円（100円）
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
6月の休館日 毎週火曜日

荒野洋子個展

大雪の除雪でできた身の丈を超える雪壁に身を預けながら、ゴム長を履き、曇り空を見上げる年配の女性。

飾らずとも叙情性にあふれる、北国に生きる女性の生きざまを切り取ったその写真は、町内在住の書道家、荒野洋子さんの個展のフライヤー。

ぜひ行きたいと思っていたのに年度末の忙しさにかまけて時が過ぎ、どうにか最終日で拝見できることに。

恥ずかしながら、会場である二セコ町の有島記念館にも初訪問と相成りました。

仕事柄、荒野さんの書に触れる機会は度々あるのですが、個展で改めて向き合わせていただくと、墨が凍ることによる独特な味わい深い手法を含め、北国の書道家の飽くなき探求心を感じることができました。

有島記念館の景観の素晴らしさも相まって、この日もまた充実した休日を過ごせたのでした。

館長 福原 秀和